

本邦初の「介護殺人」を研究した専門書。

介護殺人——司法福祉の視点から

加藤 悦子 著（日本福祉大学社会福祉学部専任講師）

2005年2月10日刊行

2003年7月23日、読売新聞は警察発表分として、介護者からの虐待が原因で最近1年間に死亡した高齢者は46人と報道した。

介護殺人——司法福祉の視点から 内容（A5判、上製カバー付、328頁）

第1章 介護殺人の全体状況

- 第1節 既存の統計資料の分析
- 第2節 介護殺人に関する先行研究
- 第3節 1998年から2003年までに生じた「介護殺人」事件

第2章 介護殺人の分析方法

- 第1節 分析枠組
- 第2節 裁判「事例」研究の実際

第3章 典型的な事件の分析

- 第1節 検討事例の抽出
- 第2節 事件の発生プロセスと背景要因

第4章 事件の発生防止に向けて

- 第1節 背景要因から見出せる課題
- 第2節 事件回避の可能性

第5章 規範的解決の前進

- 第1節 介護殺人を見る視点
- 第2節 規範的解決の可能性

第6章 介護殺人の「実体的解決」をめざして

- 第1節 介護殺人事件の「その後」
- 第2節 試論——介護殺人の「実体的解決」

終章 ——本論文の研究上の位置と課題

<推薦>

日本福祉大学大学院 教授
日本司法福祉学会 会長

山口 幸 男

超高齢社会の今日、私たちが直面している高齢者虐待や「究極の虐待」とも言われる「介護殺人・介護心中」の悲劇を防止する方法は何か。それは「事件防止」という刑事政策的問いを越えて、私たちが望む現代の高齢者介護の在り方を明らかにする問いかけであり、今日の社会科学や臨床科学が問われている緊要な課題です。

本書はこうした課題に「刑事事件」となった事例を素材として、法学研究の方法である「判例研究」と臨床学の方法である「事例研究」とを統合する「司法福祉学」の方法を駆使して迫った労作です。

ここで著者は「介護殺人」の数量的把握は勿論、事件発生のプロセスと背景要因を整理して加害者の心情や危機対応への分析枠組みを提起し、丹念な裁判調書の分析から問題の現状と要因を明らかにして事態改善の可能性と方法を具体的に追求しています。こうして著者は「介護殺人」を防止する高齢者福祉の在り方と同時に現代司法の在り方への問題提起を行っています。

私は本書が多くの方々に読まれ、問題解決への様々な共同が広がることを切望する次第です。

注文書	書店印	冊	加藤 悦子 著	株式会社クレス出版 発行	定価三、九九〇円(税込)	年 月 日
			介護殺人——司法福祉の視点から			
			ISBN4-87733-254-5 C3036 ¥3800E			

日本心理学者事典

大泉 溥 編纂

明治期以降の日本における心理学の移入・展開・発展に寄与した人物786名の経歴、研究業績を詳細に記した本邦初の事典。哲学・宗教・教育・医学・動物学・社会学・経済学・法律学・文学・芸術など関連領域の専攻者で心理学の形成に関与した人々も収録。
A5判/1,320頁/定価本体9,500円 ISBN4-87733-171-9

社会福祉統計年報

全3巻/厚生省大臣官房統計調査部編 上掛利博解説

厚生省報告例の抜本的改革によって1951年1月から各都道府県から提出されるようになった統計報告をまとめて(各巻の第2編)、それらに解説を付けて(同第1編)、昭和26年度より同34年度まで公刊されたもの。解説の最後には、英文概要も付けられている。
B5判/総2,800頁/揃定価本体90,000円 ISBN4-87733-059-3

文献選集 教育と保護の心理学

全四期48巻/別巻1 大泉溥監修・解説

心理学史の立場から近代日本の教育や社会的保護(福祉)にかかわる重要な諸労作を精選して編集。明治大正期(欧米心理学の受容と実践的模索)、昭和戦前戦中期(自立と試練)、戦後初期(反省と再出発)の三つの時期を代表する著作や論文、その他に専門雑誌・研究報告書を収録。

明治大正期全12巻 ISBN4-87733-020-8, 021-6

A5判/総12,600頁/揃定価本体249,000円

昭和戦前戦中期全12巻 ISBN4-87733-022-4, 023-2

A5判/総12,200頁/揃定価本体245,000円

専門雑誌・研究紀要全12巻 ISBN4-87733-052-6, 053-4

A5判/総12,100頁/揃定価本体250,000円

昭和戦後初期全12巻 ISBN4-87733-072-0, 073-9

A5判/総12,200頁/揃定価本体252,000円

家族研究論文資料集成

明治 大正 昭和前期篇全27巻別巻1 老川寛監修・解説

明治初期から昭和20年8月までの「家族」に関する論文資料を収録。

第1回配本全5巻 家族・家族制度論、家族・家族制度史

揃定価86,000円 ISBN4-87733-092-5

第2回配本全6巻 家族構造、大家族、戸籍・人口(統計)

揃定価116,000円 ISBN4-87733-093-3

第3回配本全5巻 家族の機能、家族の伝統と変化、農・山・漁

村家族、都市家族 揃定価113,000円 ISBN4-87733-094-1

第4回配本全6巻 婚姻 揃定価120,000円 ISBN4-87733-095-X

第5回配本全5巻 離婚、相続、隠居、分家、親子、親族・同族

・氏族、家族の問題 揃定価80,000円 ISBN4-87733-096-8

第6回配本 別巻 総目次、執筆者別索引、解説

本体5,000円 ISBN4-87733-097-6

A5判/総24,500頁/揃定価本体520,000円

戦前期国勢調査報告集

全19巻/湯沢雅彦監修 財団法人日本統計協会編集協力

大正9年を第一回として、五年毎に調査されている「国勢調査」の戦前分を復刻。全国、府県、市町村別の男女別年齢別の人口、就業状況、配偶関係、住居の種類、世帯の構成等詳細な統計集。日本の家族、地域社会、全国のすぐれた断面図を提供。

B5判/総10,900頁/揃本体376,000円 ISBN4-906330-78-9 ほか

岡崎文規著作選集 人口と家族

全6巻/清水浩昭監修・解説

大正末期から昭和40年代に至る長い期間、日本を代表する人口学者の一人であり、また人口行政の中心者であった岡崎文規の主要著書・論文のうち、「人口と家族」の視点から編集。結婚、離婚、出産、死亡全般、自殺、他殺など人口動態の幅広い資料。

A5判/総3,060頁/揃定価本体85,000円 ISBN4-87733-011-9

「子どもと家庭」文献叢書

全12巻/石川松太郎監修 山本敏子・藤枝充子編集協力

明治初年より昭和期の第二次世界大戦終了時までに家庭教育について論述した文献を、子どもと家庭(とくに両親)との人間的な関わりに視点をおき、思想・心理・生活などさまざまな角度より収録。日本の近代社会の子育ての理念・方法・内容の軌跡。

A5判/総6,280頁/揃定価本体132,000円 ISBN4-87733-042-9

戦後家庭教育文献叢書

全10巻/石川松太郎・山本敏子監修・解説

家族が家庭で子どもに基本的な教育と社会化を行う「家庭教育」は、子どもの人格形成に重要な役割をもち、教育の基本である。「家庭教育」という枠組みのなかでも、思想哲学、歴史、行政政策、社会、心理、児童・社会福祉にも及んで編集している。

A5判/総4,120頁/揃定価本体94,000円 ISBN4-87733-018-6

女性日本人

全12巻/別冊総目録、解題付 佐藤能丸監修

婦人総合雑誌として三宅花園が主宰し、大正9年9月に創刊、大正12年9月の終刊まで全38冊が刊行された。婦人参政権・男女平等・生活改革・恋愛と貞操など多方面に目配りした重要な問題を取りあげている。また大正後期の文学状況を知るに不可欠な資料。

A5判/総7,900頁/揃定価175,000円 ISBN4-906330-74-6,75-4

婦人と新社会

全7巻/別冊総目録、解題付 五味百合子監修

山田わか個人の評論雑誌として、わかを主筆に、夫嘉吉を編集発行人として大正8年4月創刊され、昭和8年7月第160号まで刊行されたものを復刻。婦人問題研究の宝庫であり、わか婦人問題は「愛」とであるという主張が全号を通じて掲げられている。

B6判/総5,100頁/揃定価本体90,000円 ISBN4-906330-76-2

藤田徳松著作集

藤田徳松著 森崎富喜編集協力

大正末より昭和初期に、精力的に婦人問題に関する論文を発表。わが国最初の総合的婦人問題文献誌『明治大正婦人問題文献誌』を独自で刊行した隠れたる書誌家藤田徳松(1898~1975)の業績と足跡。論文、小伝、書誌研究を収める唯一の書。

A5判/450頁/定価本体6,311円 ISBN4-906330-77-0

小さな家族論

湯沢雅彦著

家庭裁判所調査官、最高裁判所家庭局勤務を経て、お茶の水女子大学教授として家族関係学を担当していた著者が、1970年から約20年間に発表した家族に関する論文、エッセイを七つのテーマ(親と子の間、夫婦のきずな、高齢者の周辺等)に分類収録。

B6判/288頁/定価本体2,136円 ISBN4-906330-89-4

